

Ἐμμανουήλ

エンマヌーエル

知っておきたいキリスト教のことば (20)

インマヌエル いんまぬえる

神ともにいまして 行く道を守り あめのみ糧もて 力を与えませ
また会う日まで また会う日まで 神の守り 汝が身を離れざれ

これは、日本聖公会聖歌集 522 番の歌詞です。讃美歌(1954 年版)にも同じ歌(405 番)が収められています。(讃美歌 21 では少し歌詞が変わっています)。

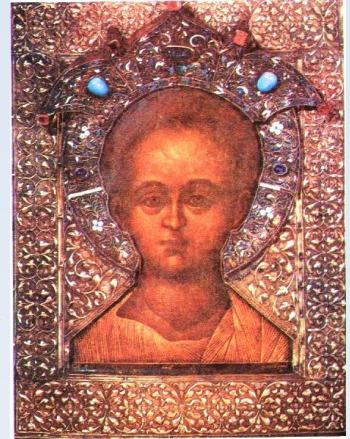
あくまで個人的な意見ですが、多くの日本人は神さまに対して、「普通の生活の中ではできれば関わりたくない」と思っているのではないのでしょうか。「さわらぬ神に祟りなし」という言葉があります。またお祭りの時にはお神輿などを担ぎ出しますが、祭りが終われば奥の間に戻ってもらいます。そして願い事があるときには、鐘を鳴らして近くまで来ていただくのです。

しかし、キリスト教の場合、「神さまが共にいる」ということが、とても大事です。「インマヌエル」という言葉は、ヘブライ語です。「インマヌ」が「わたしたちと共にいる」という意味で、「エル」は神さまです。ですから「インマヌエル」とは、「神さまはわたしたちと共にいる」ということを意味します。

この語は、旧約聖書のイザヤ書 7 章 10~17 節にある「メシア預言」の中に出てきます。そこでは「インマヌエル」という子どもが誕生する予告がなされます。そしてマタイ福音書は、イエス様こそ、その預言された方だと報告するのです。

イエス様は今を生きるわたしたちにも約束してください。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28 章 20 節)と。わたしたちはこの約束を信じ、いつも共に歩んでくださる神さまを感じるのです。「神ともにいます」という言葉は、わたしたちにとって、喜ばしいメッセージなのです。

次回は「馬小屋」です。お楽しみに。



「インマヌエルのイコン」

ロシア美術館 (1668 年)

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイによる福音書 1 章 23 節)

